人間科学部

●人間科学科

（臨床心理学コース
社会ライフデザインコース
スポーツ科学コース）

人間科学部新入生の皆さんへ

「あなたの可能性は無限です」

－社会を変える力をつける、ソーシャルイノベーター人を目指して－

人間科学部長　**田島　良輝**

みなさん、ご入学おめでとうございます。いよいよ大学生活が始まりますね。

高校生から大学生になると、いろいろな「変化」に直面すると思います。生徒から学生と呼ばれるようになり、授業時間も90分と長くなります。それから、授業もみなさんの関心に合わせて自分が好きな授業を選択することが（も）多くなります。ひょっとすると入学式で良く耳にするかもしれませせが、大学生には「自律」が期待され、必要とされます。

「自律」とは、私は「大人」になることと同じ意味かなと思っています。もちろん大人にも様々な定義がありますが、世界のホームラン王、王貞治さんのお話が印象に残っています。「子どもは与えられた環境で一生懸命やることが大切。その環境を大人がつくってあげないといけない」という内容でした。「大人」とは環境を創れる人なんだ、と。

人間科学部での学びを通して、みなさんには「大人」になってほしいと願っています。

世の中には変えなければいけないこと、使えなくなってしまった仕組みがたくさんあります。そんなオールドなんとかを変えて、新しい環境（社会）をつくっていく！ソーシャルイノベーターになれるよう、私たち教員も全力で応援していきます。

■人間科学部とは

心と身体、そして社会。これら3つのテーマを柱に人々の豊かな未来を展望します。

心＝臨床心理学コース、身体＝スポーツ科学コース、社会＝社会ライフデザインコースという3つのコースがあり、「社会問題を解決するための学び」に取り組みます。

ちなみに専門のコースの選択は、2年生からはじまります。（1年生の12月頃に決めることになります）

■人間科学部の学びの特徴

1. 実習、演習が充実しています。

2年次の専門実践演習では、1年間を通して専門分野で学ぶための実践的なスキルの習得を目指します。3年次の専門演習では、実験や調査に取り組むゼミ／学外のプレゼン大会に挑戦するゼミ／イベントづくりや社会活動に取り組むゼミ等、フィールドに出向いて実体験の中から学びを深めていきます。そして、4年次の卒業研究においては、これまでの実践的な学びを理論として卒業論文にまとめていく。「実践」と「理論」を往還するなかで、社会課題を解決できる力を身に着けていきます。

2. 実務経験豊かな教授陣が待っています。

人間科学部の強みは、現場経験豊富な先生が実践的な学びを提供できる点にあると思います。

臨床心理学コースの先生は、みなさん「現場」で活躍されている点が特徴です。それゆえ、子どもの発達障害／司法・犯罪／スクールカウンセリング等の「今、現場で起きている課題」に取り組むことができます。

スポーツ科学コースには、オリンピックを経験したコーチングや心理学の先生／現役の医師、健康運動指導のエキスパート／スポーツを活用した都市戦略やプロスポーツビジネスに精通した先生と一緒に学ぶことができます。

社会ライフデザインコースでは、一級建築士／保健師、看護師／理学療法士といった資格を

持つ先生と防災や健康、医療や介護システムの仕組みを学ぶことで、「社会課題を解決する即戦力」を身に着けることができます。

3. 取得できる資格が豊富　－専門性のある進路が開かれています－

臨床心理学コースでは、心理学系の唯一の国家資格である「公認心理士※」

スポーツ科学コースでは、「中学校･高等学校の保健体育教員」や「健康運動指導士」　社会ライフデザインコースは、「養護教諭一種」や「福祉コーディネーター」、「医療経営士」、「防災士」と、他の学部とはひと味違う資格を取ることのできる科目を用意しています。

※「公認心理士」は学部において省令で定める科目を修めて卒業し、かつ、大学院において省令で定める科目を修めて修了、あるいは省令で定める機関において2年以上の実務経験を積んだうえで受験資格を取得できます。また大学院では、必要な科目を履修することで「臨床心理士」の受験資格を取得することもできます。

専門性の高い学びを修得することで、社会の様々な分野で活躍できる卒業生を輩出しています。心理学で学ぶコミュニケーション力や協調性、スポーツで養うリーダーシップや判断力、社会で安心して生きていくために欠かせない企画力や発想力などを身に着けることで、社会に貢献できる人物として成長することを目指します。

人間科学部の3ポリシー

ディプロマ・ポリシー（DP：学位授与の方針）

大学の定める全学的な学位授与の方針に基づき、人間科学部が示す以下の知識や能力、姿勢を備えた者に学士（人間科学）を授与します。

（人間科学部DP1）

臨床心理学、社会ライフデザイン、スポーツ科学の３分野に関する基礎の横断的学修、選択したコースの専門的学修を通して、実践的な思考力を身に付け、現代社会における諸問題を発見・予測し、解決の道筋を立てることができる。

（人間科学部DP2）

幅広い教養と各コースの専門的な知識と技能を身に付け、社会生活に役立てることができる。

（人間科学部DP3）

社会とつながり、職場・地域・家庭などさまざまな生活の場において多様な人びと主体的に関わり、直面している諸課題に関心を持って、その解決に意欲的に取り組むことができる。

カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

人間科学部の学位授与の方針に掲げた知識と能力を身に付けるために、全学の教育課程編成・実施の方針に基づき、以下の通り学位プログラムを編成します。

（人間科学部CP1）

全学共通科目では、幅広い教養の修得や学びの土台づくりのために語学科目・広域科目を編成する。

・語学科目では、多文化理解を深めるとともにコミュニケーション能力を身に付ける。
・広域科目では、人文科学・社会科学・自然科学の科目群と、キャリア形成科目において、幅広い教養と生涯にわたって生き抜くための思考力を身に付ける。
・基礎科目では、「基礎演習」や「人間関係の理論と実践」によって学修の基本的なリテラシーと主体性・協調性を身に付ける。
・指定する科目群では、人間科学部での学びの基礎を身に付ける。

（人間科学部CP2）

人間科学部の専門教育科目を以下の通り体系的に編成する。

・「基礎選択科目」
臨床心理学、社会ライフデザイン、スポーツ科学の3分野に関して、それらの専門的学修につなげる基礎的な科目を編成し、人間科学に関する幅広い知識を身に付ける。

・「コース専門科目」
以下の3分野で示す知識・能力を身に付けることができるように教育課程を編成する。

□臨床心理学
現代社会における人々の心理的諸問題に対して、臨床心理学的観点から支援をしていくために、対人援助の基礎について実践的に学ぶことのできる科目群を編成する。なお、公認心理師の受験資格に必要な学部科目25科目を開講し、主に【子ども・発達心理学】、【メンタルヘルス】、【司法・犯罪心理学】の3領域から教育課程を編成する。

□社会ライフデザイン
不確実な現代社会をしなやかに力強く生き抜くことに貢献する実践力を身に付けることができる科目群を編成する。なお、【社会健康学領域】【社会安全学領域】の2領域から教育課程を編成する。

□スポーツ科学

深く人間の健康や運動・スポーツについて、社会や自然といった人間を取り巻く環境の中で「生きていく力」をより強固にすることを健康・スポーツの側面から支援することできる科目群を編成する。なお、【スポーツコーチング領域】、【スポーツ健康領域】、【スポーツビジネス領域】の３領域から教育課程を編成する。

（人間科学部CP3）

演習等の科目では、主体的・対話的で深い学びを効果的に進められるよう、少人数教育科目を編成する。

・１年次には、グループワーク等を通じて大学での主体的な学びの方法を身に付けられるよう、基礎演習を配置する。
・３年次には、選択した分野の基礎的学修成果を主体的に実践できる力を身に付けられるよう、専門ゼミを配置する。
・４年次には、自らの問題意識に基づき、それを実証的に検討し、自らの解を導き出す問題発見力・実証的思考力・問題解決能力を身に付けられるよう、卒業研究を配置する。

これらの教育課程について、「大阪経済大学アセスメントポリシー」に基づき、様々な角度からの評価（試験・レポート、小テスト、外部アセスメントテスト等）をすることにより、学修成果を把握します。

また、教育課程における各授業科目については、シラバスに到達目標を定め、どのように評価するのかを記載することで、質を保証するとともに教育課程全体の評価・検証の状況を把握します。

教育の質を担保するために、以下の２つのことを行う。

・教育課程について、「大阪経済大学アセスメントポリシー」に基づき、様々な角度からの評価（試験・レポート、小テスト、外部アセスメントテスト等）を実施することにより、学修成果を把握する。
・教育課程における各授業科目において、シラバスに到達目標と評価方法を明示し、それらの達成度について把握する。

アドミッション・ポリシー（AP：入学者受入の方針）

人間科学部は、教育目標に定める多彩な職業人を育成するため、次のような意欲と能力を備えた者を受け入れます。

（人間科学部AP1）

・人文・社会科学系の大学で学ぶ上で必要な高等学校等における国語、数学、英語、社会等の知識等基礎学力を有する者。

（人間科学部AP2）

・学内外の諸活動に積極的に取り組み、能動的に学問に触れ、知識を深めることに意欲を有し、現代社会の多面的な理解に向けて、さらにそれらを深める意欲を有する者。

（人間科学部AP3）

・現代社会における諸課題の解決に向けて、多様な人々と積極的にコミュニケーションを図り、互いを認め合い、協働しながら学ぶとともに切磋琢磨することに意欲を有する者。

上記のような者を受け入れるために、以下の入学試験において公平かつ適正に選抜する。

【総合型選抜】【学校推薦型選抜】【一般選抜】【社会人入試・国際留学生入試】

（各選抜方式の詳細は「全学アドミッション・ポリシー（6頁）」を参照してください）

人間科学科

1．人間科学部で履修する科目の概要と履修の流れ

1 人間科学部で履修する科目の区分と必要単位数

人間科学部で開設されている科目の区分とその性格、そして必要単位数は次のとおりです。これらを合わせて、卒業に必要な学科専攻科目の単位数は100単位※1になります。

※1：大学卒業に必要単位数は全学共通科目の24単位を含めた124単位です。全学共通科目の履修の要件には学部によって異なりますので、本手引きの全学共通教育科目に関する説明（39頁）や「授業科目　年次配当表･時間割表」をよく読んで、間違いのないように履修してください。

（A）基礎科目

（A－1）基礎科目（必要単位数6単位）

「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」と「人間関係の理論と実践」は、人間科学部における学びの導入として1年次に学ぶことになっている科目です。これらの3科目は、必ず履修しなければなりません※2。

（A－2）基礎選択科目（必要単位数8単位）

各コースの6つの導入科目（「心理学概論」「臨床心理学概論」「社会健康学入門」「社会安全学入門」「スポーツ健康科学概論」「健康と運動」）、および情報リテラシーにかかわる科目（「情報リテラシー実習」）です。

※2：「人間関係の理論と実践」の単位が修得できなかった場合は、不足分を（A－2）区分の科目で代替しなければなりません。

（B）専門科目

（B－1）専門実践演習科目（必要単位数4単位）

専門的な考え方や研究方法など､所属コースでの学びに必要な基本的な事柄を修得するために、少人数の演習形式で行われる科目です。2年次の春学期・秋学期に1科目ずつ（同じ科目名でⅠとⅡが開設されている場合は原則としてその両方）履修します※3。

（B－2）コース専門基幹科目（必要単位数10単位）

各コースにおいて専門的な事柄を学ぶための基幹科目です。所属コースで10単位の修得が必要です。所属コース以外の科目も履修できますが､その場合には（C）区分の単位として認定されます。

（B－3）コース専門選択科目（必要単位数36単位）

各コースにおいて専門的な事柄を学ぶための講義、演習、実習科目です。開設科目数も多く、必要単位数も最も多くなっています。各コースでの学びのポイント（H-12頁以下）や取得したい免許や資格の要件なども参考にしながら、履修する科目を選択します。所属コース以外の科目も履修できますが、その場合には（C）区分の単位として認定されます。

※3：専門実践演習の単位を修得できなかった場合は、不足分を所属コースの（B－2）（B－3）区分の科目で代替しなければなりません。

（C）選択科目（必要単位数はC－1、C－2合わせて28単位）

（C－1）

所属コース以外の（B）区分単位、（A）（B）区分の剰余の単位、全学共通科目の［外国語科目･広域科目］の剰余の単位、全学共通科目［オープン科目（ただし、本学部の科目は除く）］です。ただし、全学共通科目の単位の上限は8単位です。

（C－2）

教育職員養成課程配当の「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」でもある教養関連科目です。人間科学部の卒業単位として認められます。

（D）演習科目（必要単位数8単位）

「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」（3年次）および「卒業研究」（4年次、通年）。いわゆる「ゼミ」と呼ばれる授業で、3年次から卒業までの2年間にわたって、担当教員の指導のもとでそれぞれが学習や研究などに取り組み、その発表や討論などを中心にして行われる授業です。必ず履修しなければなりません※4。

※4：「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」の単位が修得できなかった場合は、（B）区分の科目で代替しなければなりません。「卒業研究」（必修）の単位が修得できなかった場合には、在学期間が4年を超える者に限り、（B）区分から新たに2科目4単位を修得することで代替できます。

2 人間科学部における4年間の履修の流れ

1年次には、全学共通科目と人間科学部の基礎科目を中心に履修し、所属コースが決まった2年次から、専門科目を本格的に学んでいくことになります。3年次からはゼミに所属して、担当教員の指導を受けながら、継続的に課題や研究に取り組んでいきます。そして、4年次には大学での学びの集大成として、卒業研究をまとめます。

1年次

- 「**基礎演習Ⅰ**」と「**人間関係の理論と実践**」は1年次の春学期に必ず履修しなければなりません。いずれも、どのクラスでどの時間に履修するのかは、大学から指定されます。
- 「基礎演習Ⅰ」は、大学での学び方について学ぶ授業です。ノートの取り方、資料の探し方、レポートの書き方、また発表の仕方などについて学びます。クラスは少人数のため、受講生同士の交流が生まれ、友だちになったり、教員といろいろと話したりすることで、大学での学びの出発点になります。
- 「人間関係の理論と実践」では、さまざまな現場実習を通じて、大学での各自の学習目的を明確にすることを目指します。すでに目的が明確な学生にとっては、さらに大学での知識やスキルが実社会でどのように役立つのかを考えるきっかけになります。また、事前学習、現場実習、事後学習をそれぞれグループで実施することで、友人同士や実習先の人たちとの人間関係もつくります。実習内容は「防災ピクニック」、「ライフキネティックス」、「プロジェクト・アドベンチャー」などの予定ですが、変更になることもあります。
- 秋学期の「**基礎演習Ⅱ**」は、文献講読、文章作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通じて、大学での学びのリテラシーをさらに高める授業です。「基礎演習Ⅱ」は、担当教員の専門性によって内容が異なりますので、自分の興味や関心に合わせてクラスを選択してください。「基礎演習Ⅱ」の履修には予備登録が必要です。登録手続き等についてはKVCを通じて案内をしますので、よく注意をして確認するようにしてください。また、定員を超えた場合には、成績等による選考があり、希望したクラスで履修できないことがあります。

基礎選択科目の履修

- コースの導入科目は、そのコースでのその後の学びの基礎になるので、関心のあるコースの導入科目については、できるだけ1年次に履修しておくことが望ましいといえます。各コースの導入科目は次のとおりです。

  臨床心理学コース：「心理学概論」（春学期）※5、「臨床心理学概論」（秋学期）
  社会ライフデザインコース：「社会健康学入門」（春学期）、「社会安全学入門」（秋学期）
  スポーツ科学コース：「スポーツ健康科学概論」（春学期）、「健康と運動」（春学期）

- 広く人間科学部における専門的な学びに関心のある場合や、どのコースに進むか決まっていない場合にも、ぜひ各コースの導入科目の中からいろいろな授業を履修してみてください。
- 「情報リテラシー実習」も、できるだけ１年次に履修しておくことが望まれます。

※５：公認心理師をめざす場合は、全学共通科目の「心理学入門」ではなく、「心理学概論」を履修してください。

コース専門科目の履修

- 各コースのコース専門科目の中には１年次から履修できるものもありますので、余裕がある場合には、コース専門科目の中からも関心ある科目を選んで履修するとよいでしょう。
- 取得したい免許※6や資格が決まっている場合には、そのために必要なコース専門科目を１年次から計画的に履修していくことを推奨します。

※６：教員免許の取得をめざす場合は、本学では１年次の秋学期から始まる「教育職員養成課程」に登録することが必要です。教職課程に関する連絡事項はすべてKVCを通じてなされますので、よく注意しておいてください。

２年次からのコースの選択について

- １年次の秋学期（11 ～ 12月頃）には、２年次から所属するコースの選択をします。各コースの導入科目の履修などを通して、その頃までには進みたいコースを決めておいてください。
- コース選択の手続きの詳細は「基礎演習Ⅱ」の授業やKVC等を通じて案内しますので、よく注意しておいてください。
- 特定のコースに希望者が過度に集中した場合には、１年次の成績等に基づいて選考がなされることがあります。その場合は第２希望以下のコースに所属することになります。

２年次

専門実践演習科目の履修

- 各コースの専門領域における方法論や必要な技能を、実践的、体験的に身につけていくための科目です。人間科学部においてもっとも特徴的な科目群で、各コースでの学びの土台となる部分を習得する、最も重要な科目です。
- ２年次の春学期・秋学期に、所属するコースの専門実践演習科目の中から各１科目を必ず履修します。同じ科目名でⅠとⅡが開講されている場合は原則としてその両方を、また、同じ科目名の授業が複数ある場合には同じ担当者の科目を履修します。
- 社会ライフデザインコースとスポーツ科学コースの専門実践演習科目の履修には、予備登録が必要です。登録手続きについては KVCを通じて案内をしますので、よく注意をして確認するようにしてください。定員を超えた場合には、成績等による選考があり、希望した授業を履修できないことがあります。
- 臨床心理学コースでは、「臨床心理学実践演習（心理的アセスメント）」と「臨床心理学実践演習（心理学的支援法）」を春学期と秋学期とに分けて履修します。また、専門実践演習科目以外に「心理学統計法Ⅰ」（春学期）と「心理学実験Ⅰ」（秋学期）も、２年次に必ず履修しなければなりません。これら４科目の履修クラスは、大学があらかじめ割り振ります。

コース専門科目の履修

- ２年次からは、所属コースのコース専門科目を本格的に学んでいくことになります。同じコースの科目でも領域によって分かれていたり、基礎と発展に分かれたりしていますので（H-20 ～ 21頁の履修系統図参照）、これらの点に留意しながら履修してください。※7
- 取得したい免許や資格がある場合には、そのために必要な科目の単位を全て修得できるように計画を立てて履修してください。

※７：所属コースで学ぶ中で興味や関心が変わり他のコースへの変更を希望する場合には、３年もしくは４年の春学期の授業が始まるまでに変更の手続きが必要ですので、それまでに教務部に相談してください。コースを変更した場合には、取得した専門科目の単位の区分が変わってきますので、くれぐれも注意してください。

専門科目以外の科目の履修

- 全学共通科目や基礎選択科目で必要な単位数を満たしていない場合は、２年次以降も引き続きそれらの科目を履修していきます。全学共通科目は、必要単位数を超えて履修した場合でも、８単位までは人間科学部の（C）区分の単位として認められるので、自分の関心に合わせて、広域科目や語学科目、また他学部のオープン科目を履修してもよいでしょう。
- 基礎選択科目では、「キャリアデザイン」などのキャリア形成に関する科目も履修できますので、将来の進路のことも考えながら積極的に履修するとよいでしょう。

３年次からのゼミの選択について

- ２年次の秋学期（11月頃～）には、３年次から所属するゼミの選択があります。「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」と「卒業研究」を必ず履修しなければなりません。
- 希望者がゼミの定員を超えた場合には、成績等によって選考されます。選考に外れた場合は、第２志望以下のゼミに所属することになります。なお、定員を超えた場合の選考は、原則として所属コースの学生が優先されます。
- 「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」から「卒業研究」まで、原則として２年間を通して同じゼミに所属することになります。
- ゼミは、履修した専門実践演習とは関係なく選択することができます。また、基本的には所属するコースの教員のゼミを選択しますが、他のコースのゼミを選択することも可能です。
- ゼミ選択のスケジュールや手続きの詳しいことは、専門実践演習の授業やKVC等を通じて案内しますので、よく注意しておいてください。

３年次

- ３年次からはゼミに所属して担当教員の指導を受けながら、個人あるいはグループで課題や研究などに継続的に取り組んでいくことになります。調査や、実践研究、そしてその成果の発表など、これまでにも増して主体的で能動的な学びの姿勢が求められますが、担当教員から指導を受けながら積極的に取り組むことで、大学での学びが大きく進展します。また、ゼミによっては、ゼミ合宿なども行われることがあります。※8
- コース専門科目や専門科目以外の科目の履修の進め方は、２年次と同様です。コース専門科目を含めて４年間で必要単位を修得できるように、見通しをもって履修するようにしてください。
- 臨床心理学コースの専門科目「心理演習Ⅰ・Ⅱ」は3・4 年次配当科目ですが、4年次に「心理実習Ⅰ・Ⅱ」の履修を予定している者は、3年次に「心理演習Ⅰ・Ⅱ」を履修しておくことを推奨します。また、4年次で「心理実習Ⅰ・Ⅱ」の履修を希望する場合は、3年次の秋学期に開催される心理実習説明会に必ず参加してください。

※８：事情によりゼミの変更を希望する場合には、各学期終了時に他のゼミに異動することができます。ただし、「卒業研究」は通年科目のため、途中での変更は原則としてできません。ゼミの変更を希望する場合には、現所属のゼミの担当教員と新しく異動するゼミの担当教員の了解を得て、教務部に「転籍届」を提出する必要があります。ゼミの変更を希望する場合には、教務部に相談してください。

４年次

- 引き続きゼミに所属し、１年間を通して担当教員の指導を受けながら、大学での学びの集大成

としての卒業研究に取り組み、完成させます※9。コースやゼミによっては発表会等も行われますので、そのスケジュールや要件等については、コースからの案内や担当教員のアナウンスによく注意しておいてください。

- コース専門科目や専門科目以外の科目の履修の進め方は３年次と同じです。４年次には就職活動等で授業に出席できないことなども起こりやすくなりますので、卒業研究については、担当教員と十分に相談をしながら計画的に進めるとともに、それ以外に必要な単位が残っている場合には、取りこぼしがないよう、十分に確認し、余裕をもって履修計画を立ててください。

※９：「卒業研究」は必ず履修して単位を取得しなければなりません。在学期間が４年を超えた者が（Ｂ）区分から新たに２科目４単位を修得することによって「卒業研究」を代替する場合には、「卒業研究」の担当教員の了解を得て、教務部に「辞退届」を提出する必要があります。

◇◇◇　学期あたりの履修単位数制限についての注意事項　◇◇◇

各学期に履修可能な単位数には、１年次は22単位、２年次以降は24単位までという制限がありますが、単位数の上限の計算に際しては次の点に注意してください。

- 卒業研究は通年で４単位ですが、履修可能な単位数の計算の上では、半期ごとに２単位として計算します。
- 夏季休暇中に開講される集中講義は、秋学期の単位数として計算します。例えば、３年次に夏季の集中講義を２科目４単位分履修した場合には、その秋学期に履修できる単位数の上限は、それら集中講義分を除いた20単位になります。
- 以下の科目の履修については、履修可能な単位数の上限の計算の対象には含まれません。

○全学共通科目 必修外国語科目の再履修
○全学共通科目「語学研修」「インターンシップ」
○「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究」の再履修
○（Ｂ－２）コース専門科目（スポーツ科学コース）「スポーツ実務実習b（海外視察型）」
○（Ｂ－２）コース専門科目（臨床心理学コース）「福祉心理学特殊講義（保育士）」
○（Ｂ－３）コース専門選択科目（スポーツ科学コース）「野外活動の理論と実際（スノースポーツ）
○大学コンソーシアム大阪の単位互換科目、関西外国語大学単位互換科目

2．各コースの学びのポイントと各種資格について

1 臨床心理学コース

学びのポイント

臨床心理学コースでは、人間の記憶や感情といった心理学の基礎を学んだ上で、より専門的な分野として臨床心理学を学ぶことのできるカリキュラムを設けています。

臨床心理学というのは、乳幼児から高齢者までの心の発達を学び、心理的支援について探究する学問です。４年間の学びを通して、基礎心理学、心の発達、心理療法、カウンセリング、心理的アセスメントなどに関する基本を学び、心理的支援に必要な基本的知識とスキルを身につけることを目指します。

そして、さらに特化した学びができるよう「子ども・発達心理学」「メンタルヘルス」「司法・犯罪心理学」の3つの領域を設けています。「子ども・発達心理学領域」では、子どもの発達について学び、福祉や教育現場で、子どもの成長を支える支援のあり方について学びます。「メンタルヘルス領域」では、地域や医療機関などで、臨床心理学の知見を活かして、人々の心の健康を育むためにできる支援のあり方について学びます。「司法･犯罪心理学領域」では、犯罪をはじめとする様々な社会事象について考え､問題解決に向けた具体的なアプローチ方法を学びます。なお、臨床心理学コースのカリキュラムは公認心理師科目の5領域をカバーする構成となっています。

公認心理師資格の取得について

日本初の心理学の国家資格である公認心理師の第１回目の試験が2018年に行われ、2019年に最初の公認心理師が生まれました。

公認心理師試験の受験資格を取得するには、本学で所定の科目すべてを修得して卒業したうえで、定められた機関に就職して心理支援者として2～3年の実務経験を積む【実務者トラック】、または公認心理師カリキュラムをそなえた大学院修士課程で必要科目をすべて修得して修了する【大学院トラック】のいずれかに進む必要があります。

いずれのトラックに進むにしても公認心理師の受験資格を取得するためには在学中に所定の科目をすべて修得しておく必要があり、修得できない科目を１つでも残して卒業すると公認心理師の受験資格は得られません。【実務者トラック】の就職はかなりの狭き門です。同様に､公認心理師の大学院修士課程に進む【大学院トラック】についても、厳しい入試に合格し、さらに大学院での学びを修了するのは大変なことです。公認心理師資格を目指す場合には、1年次から熱心に勉学に取り組むようにしてください。

なお､公認心理師カリキュラムとして修得しなければならない科目は次頁の表のとおりです。

公認心理師　大学における必要な科目

1. 公認心理師の職責 2. 心理学概論 3. 臨床心理学概論 4. 心理学研究法 5. 心理学統計法Ⅰ 6. 心理学実験Ⅰ 7. 知覚・認知心理学 8. 学習・言語心理学 9. 感情・人格心理学 10. 神経・生理心理学 11. 社会・集団・家族心理学 12. 発達心理学 13. 障害者・障害児心理学	14. 臨床心理学実践演習（心理的アセスメント） 15. 臨床心理学実践演習（心理学的支援法） 16. 健康・医療心理学 17. 福祉心理学 18. 教育・学校心理学 19. 司法・犯罪心理学 20. 産業・組織心理学 21. 人体の構造と機能及び疾病 22. 精神疾患とその治療 23. 関係行政論 24. 心理演習Ⅰ・Ⅱ※1 25. 心理実習Ⅰ・Ⅱ（80 時間以上）※2

※1：4年次に「心理実習Ⅰ・Ⅱ」の履修を予定している場合は、3年次に「心理演習Ⅰ・Ⅱ」を履修しておくことを推奨します。

※2：4年次に履修します。学外での実習および学内での事前学習と事後学習を行います。希望者は３年次秋学期におこなう説明会に必ず参加するようにしてください。

その他の資格について

「臨床心理学コース」では、必要な科目を履修することで、（社）日本心理学会が認定する「認定心理士」の資格を取得することができます。この資格は、専門の職業に直接結びつくものではありませんが、大学で専門的に「心理学」を履修したことを証明できる資格です。

さらに、国家資格である「保育士」の受験科目に関連する科目の多くがコースの専門科目に含まれており、在学中に資格を取得し申請することで4単位が認定されます。※4希望者には、学外の資格講座を紹介することもできます。

※4：（Ｂ－２）コース専門科目（臨床心理学コース）「福祉心理学特殊講義（保育士）」として認定されます。これは履修単位の上限の計算の対象には含まれません。

大学院進学について

臨床心理の専門職に就くには、公認心理師または臨床心理士の資格を取得することが必要であり、現時点では、その両方を取得するのがもっとも有益と考えられます。本学の大学院人間科学研究科臨床心理学専攻では、必要な科目をすべて備えたカリキュラムを提供しており、両方の受験資格を取得することができます。臨床心理士の資格を取得するには、(財）日本臨床心理士資格認定協会が指定する大学院を修了後、試験を受けて合格することが必要です。臨床心理士の養成大学院の入試は難しく、かなり熱心に取り組まなければ取得できない資格です。１年生のうちから臨床心理士資格についてよく調べるとともに、自己成長と勉学にしっかり励んでください。また、本学の大学院人間科学研究科臨床心理学専攻では、学内特別入試※5も実施していますので、出願資格などを確認して計画的に学習してください。

※5：修得単位、成績等、要件を満たした場合、筆記試験は免除され、入学試験は口頭試問のみになります。

2 社会ライフデザインコース

学びのポイント

本コースは、医療社会と生活環境について専門的に学ぶコースです。コース学習の概要を知るには、まず１年生から取得できる(A-2)科目の「社会健康学入門」(春学期)と「社会安全学入門」(秋学期)を受講してみましょう。社会ライフデザインコースの先生たちが数回ずつ、それぞれの専門から分かりやすく入門授業をします。前者のテーマは地域社会と健康、後者は暮らしと安全に関することです。

さらに関心がある人には、１年次から履修できる科目として、(B-2)科目の「医療社会学」「現代家族論」「地域福祉論」「現代社会とエイジング」「いのちを守るまちづくり」「人間と災害」などがおすすめです。

こうして本コースに興味関心を持ったならば、２年次進級時の「コース選択」で「社会ライフデザインコース」を選択します。選択するとまず、(B-1)科目の「社会ライフデザイン実践演習Ⅰ・Ⅱ」を履修してください。この授業で実際に地域の現場で実習授業を体験します。

それぞれの担当教員に応じて、地域の保健と健康、公衆衛生、地域の防災、高齢者の福祉、職場の健康などに関連する実習が用意されています。いずれも「生きる」をテーマにした、実社会に役立つフィールドワークとなっています。

さらに(B-3)区分ではより発展的な講義を受けていきます。２つの学習領域があり、【社会健康学領域】では家族や学校、職場の保健や健康を学び、健康志向の生活づくりに必要な力を身につけます。

また、【社会安全学領域】では、将来起こりうる自然災害などに対して安全な生活環境の仕組みを学び、安心できるまちづくりに貢献する力を身に付けます。

職業人としての将来を見据えて、医療関係、住環境関係、教職関係などの資格も取得するとさらによいでしょう。不確実な現代社会をしなやかに力強く生き抜く実践力を習得しましょう。各自の目標に即して充実した４年間を計画的に過ごしてください。

養護教諭一種教員免許の取得について

養護教諭の先生は「保健室の先生」として皆さんも子供のころから慣れ親しんできたでしょう。養護教諭は近年ますます学校現場で重要な役割を担っています。学校内で生じるケガや病気の手当、健康相談といった保健業務だけでなく、水質検査など環境衛生や、ウイルスなどの感染対策にも携わっています。また近年、児童虐待や生徒の不登校が増加していることに関連して、心の病を抱えた子どもたちにも対応しており、生徒たちの心と体のトータルな健康維持の役割を担っています。

さらに、養護教諭は、教室にて、「保健学習や保健指導」など保健教科の授業も担当するようになりました。また特別な支援が必要な児童・生徒への教育も期待されています。これからは地域社会や家族との連携によって、学校を中心とした地域全体の健康も担う重要な仕事となっていくでしょう。

このように「保健室の先生」である養護教諭の仕事内容は、従来の学校保健の仕事に加え、不登校傾向の児童生徒への対応も含めて多岐にわたっています。今後も養護教諭に対する社会的ニーズは継続するものと言えます。

やりがいのある仕事に就きたい、しかも安定した職業に就きたい。そういう方には養護教諭がピッタリでしょう。もちろん資格取得には努力は必要です。しかし皆さん方も十分に実現可能な目標です。

なによりも、これまで大阪経済大学人間科学部の先輩たちは、実際に保健体育の先生として中学校や高等学校に就職していますし、また親和大学と提携した課程を通して小学校教員免許を取得し、小学校教員として活躍している先輩たちもいますよ。

また、本学と同様に、近隣のほかの私立大学でも、養護教諭免許の取得者ならびに教員としての採用者は多いです。取得者および採用者の実績が多い大学（10名以上）を挙げてみると、京都女子大学心理共生学部、同志社女子大学看護学部、関西福祉科学大学健康福祉学部、梅花女子大学看護保健学部、甲南女子大学看護リハビリテーション学部などとなっています。

これらの大学を見て気づいたように、養護教諭一種免許状は一般的に、医療系学部でしか習得できない資格です。しかし大阪経済大学人間科学部ではそのような制約を超えて、資格取得することが可能となりました。皆さんにはこのようなチャンスをぜひ活かしていただきたいです。

大事なことは、途中で諦めることなく、最後の養護実習まで完走する意欲です。それがあれば、大丈夫です。

• 必要科目と標準的な履修方法

「社会ライフデザインコース」は、「地域保健」と「生活環境」を対象とする教育コースです。養護教諭一種免許状取得に必要な科目のほとんどは、本コースの科目を履修することによって自ずと修得できます。「地域保健」面では児童・生徒の保健医療的支援、「生活環境」面では感染症などの危機管理を学び、それを基礎にして養護教諭一種に相応しい知識と能力を身につけるべく、カリキュラムは工夫されています。

教職課程で必要な科目は大きく２区分に分けられています。一方は養護教諭独自の「養護に関する科目」、他方は保健体育や社会公民などすべての教職課程に共通する「教育の基礎的理解に関する科目等」です。前者の「養護に関する科目」は以下の表の通りです。

「養護に関する科目」一覧 (必要単位・合計28単位)　※　「選択科目」はいずれか１科目を修得

必要単位	開講科目	必修科目単位数	選択科目単位数	保健体育教職との重複科目
4	生活習慣病と運動	2		
	衛生・公衆衛生学		2	○
	医療社会学		2	
2	学校保健	2		○
2	養護概論	2		
2	健康相談活動の理論と方法	2		
2	スポーツ栄養学	2		
2	人体の構造と機能及び疾病		2	
	スポーツ生理学		2	○
2	病理学・免疫学	2		
2	精神保健概論	2		
10	社会ライフデザイン実践演習Ⅰ	2		
	社会ライフデザイン実践演習Ⅱ	2		
	地域・看護実習Ⅰ	2		
	地域・看護実習Ⅱ(救急処置)	2		
	現代家族論		2	
	地域福祉論		2	
	コミュニティマネジメント論		2	

上の表にある「養護に関する科目」(必要単位・合計28単位)の標準的な履修方法は、はじめに１年次の春学期に「**現代家族論**」(B-2区分・２単位)、秋学期に「**医療社会学**」(B-2区分・２単位)と「**スポーツ生理学**」(B-2区分・２単位)を履修してみましょう。「スポーツ生理学」は保健体育教員免許でも必要な科目です。

２年次進級時での「コース選択」にて「社会ライフデザインコース」を選択したならば、２年次で必ず「**社会ライフデザイン実践演習Ⅰ**」(B-1区分・２単位）と「**社会ライフデザイン実践演習Ⅱ**」(B-1区分・２単位）を履修してください。ただし、クラス担当の先生が指定されていますので注意が必要です。2025年度は、**大橋純子先生**か、**石原礼子先生**か、どちらかの担当クラスを履修してください。

また３年次の実習関連科目としては、春学期に「地域・看護実習Ⅰ」(B-3区分・２単位）と「**地域・看護実習Ⅱ(救急処置)**」（B-3区分・２単位）があります。ここでは、１日間の病院での臨床実習と、学校保健と連携する地域の福祉施設での実習をおこないます。

他方、「教育の基礎的理解に関する科目等」(必要単位･合計30単位)は、ほとんどが保健体育教職や社会公民教職と共通する科目です。それについて詳しくは教務部教職課程室の発行している**『教職履修のてびき』(2025年度用)の「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目一覧**を参照してください。いずれの教職課程にするか迷っているとしても、１年次では春学期に「教育学入門」(全学共通科目①区分・２単位)、秋学期に「教職概論」(２単位)を履修すればよいでしょう。

ただ注意すべき点として、「教育の基礎的理解に関する科目等」には、ほかの教職と違い、養護教諭に独自の科目があります。それは３年次秋学期の「**養護実習**」(5単位)と、４年次春学期の「**教職実践演習(養護)**」(２単位)です。これはほかの教職課程の「教育実習」に該当するものです。この科目では、大学内で十分に事前学習をした後、小学校あるいは中学校あるいは高等学校で３週間の教育実習をおこないます。また実習後にも振り返りの事後学習をします。

「教育の基礎的理解に関する科目等」については以下の表の通りです(一部の科目を省略。省略部分については、『教職履修のてびき』で確認してください)。

教育の基礎的理解に関する科目等(必要単位・合計30単位)

施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	
		必修科目	選択科目
教育の基礎的理解に関する科目	教育学入門		2
	教職概論	2	
	そのほか（省略）		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の理論と実践	2	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	
	そのほか（省略）		
教育実践に関する科目	**養護実習**	**5**	
	教職実践演習（養護）	**2**	

最後に、以下には参考までに、「養護に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」との学年ごとの標準的な履修方法を示しておきます。すでに述べたように、「養護に関する科目」のほとんどは社会ライフコースのB-1、B-2ならびにB-3科目となっています。

養護教諭一種免許、標準的な科目の履修方法

年次	学期	養護に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等
１年次	春学期	現代家族論（B-2）	教育学入門
		精神保健概論（B-2）	
	秋学期	医療社会学（B-2）	教職概論
		スポーツ生理学（B-2）	
		地域福祉論（B-2）	
２年次	春学期	学校保健（B-3）	教育課程論
		養護概論（B-3）	教育方法論
		社会ライフデザイン実践演習Ⅰ（B-1）	子どもの臨床心理学（C-2）
			学校と教育の歴史
	秋学期	衛生・公衆衛生学（B-3）	教育行政学
		スポーツ栄養学（B-3）	教育におけるICT活用
		コミュニティマネジメント論（B-3）	教育心理学概論（C-2）
		人体の構造と機能及びその疾病（B-3）	教育相談の理論と方法（C-2）
		社会ライフデザイン実践演習Ⅱ（B-1）	

3年次	春学期	病理学・免疫学（B-3）	特別支援教育概論
		生活習慣病と運動（B-3）	生徒・進路指導論
		健康相談活動の理論と方法（B-3）	
		地域・看護実習Ⅰ（B-3）	
		地域・看護実習Ⅱ(救急処置)（B-3）	
	秋学期		特別活動および総合的な学習の時間の指導法
			道徳教育の理論と実践
			養護実習
4年次	春学期		教職実践演習（養護）
	秋学期		

その他の資格について

• 防災士の資格取得について

防災士をめざす人のために、社会ライフデザインコースでは大阪公立大学都市科学・防災研究センターと提携して、同センターの防災士養成講座を受講することができます。昨年度はすでに、見事に2名の資格合格者が出ました。受講を希望する学生は教務部に連絡してください。また都市科学・防災研究センターのウェブサイトで防災士養成講座の概要を確認してください。

（https://www.omu.ac.jp/orp/urec/activity/training/）

• 福祉住環境コーディネーターの資格取得について

「福祉住環境コーディネーター」の資格をめざす人は、「福祉デザイン概論」と「ユニバーサルデザイン論」を受講してください。福祉住環境コーディネーターに要求される医療分野や住環境の知識や考え方、住まい手にとって快適な住空間を作る考え方を学ぶことができます。福祉住環境コーディネーターについて詳しくは、東京商工会議所「福祉住環境コーディネーター検定試験」のウェブサイトで取得方法や申し込みを確認することができます。

（https://kentei.tokyo-cci.or.jp/fukushi/）

• 医療経営士の資格取得について

医療経営士の資格をめざす人は、「医療政策社会論」と「地域医療社会論」を受講してください。医療経営士に要求される医療および医療経営に関する基礎知識を学ぶことができます。

医療経営士とは、医療機関をマネジメントする上で必要な医療および経営に関する知識を備え、経営課題を解決する実践的な能力を持つ人材に与えられる資格です。詳しくは日本医療経営実践協会のウェブサイトで、概要や取得方法を確認することができます。（http://www.jmmpa.jp/about/）

3 スポーツ科学コース

学びのポイント

スポーツ科学コースは、【スポーツコーチング領域】、【スポーツ健康領域】、【スポーツビジネス領域】の３領域から構成されています。保健体育科教員、スポーツインストラクター、スポーツ指導員、健康運動指導士、トレーナーや企業の健康管理部門等で活躍することをめざす学生諸君はもとより、さらに深く人間の健康や運動・スポーツについて知りたい学生諸君のために開設されています。また、社会や自然といった人間を取り巻く環境の中で「生きていく力」をより強固にすることを健康・スポーツの側面から支援するための領域であるともいえます。自らの進路や関心に基づいて、３領域の中から興味がある科目を選択し、よりよい環境の中でより充実して豊

かに生きるために必要な基礎的な能力を身に付けてほしいと思います。

【スポーツコーチング領域】は、主に教育現場や生涯スポーツでの指導者を目指す人に開設した領域です。【スポーツ健康領域】は、企業の健康管理部門、健康産業、フィットネスクラブで働くことや、教員、公務員を目指す人あるいは人間の健康や運動・スポーツについて学びたい人のために開設された領域です。【スポーツビジネス領域】は、プロスポーツクラブや地域スポーツクラブ、またスポーツメーカーや一般企業の現場で活躍できるビジネス感覚やマーケティングスキルを持ったスポーツパーソンを目指す人に開設された領域です。

保健体育教員をめざす学生へ

「教育職員養成課程で学ぶこと」を参考にして、1年次から開設されている「教職概論」、「健康とスポーツの理論と実際（水泳）」、「健康とスポーツの理論と実際（陸上）」、「健康とスポーツの理論と実際（柔道、剣道、ダンス）」、「健康とスポーツの理論と実際（ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、サッカー）」、「健康とスポーツの理論と実際（体操）」、「野外活動の理論と実際（野外キャンプ、スノースポーツ）」などの科目を積極的に履修するようにしてください。また、「保健体育科実践Ⅰ・Ⅱ」では、教育現場の経験豊富な教員が保健体育の先生になるためには何をしなければならないか、何を身に付けなければならないかについて具体的な指導しますので、２年次もしくは３年次に受講してください。その他、教員採用実技試験対策として「実技対策セミナー」を開講しており、コース独自の支援（世話人：九鬼靖太准教授）も行っていますので、教員採用試験の突破に向けてがんばりましょう。

健康運動指導士をめざす学生へ

動脈硬化や心臓病など生活習慣病になるのは運動不足が原因のひとつといわれています。これを防ぐために適切な運動を指導する専門家が必要になります。健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携しつつ、安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者をいいます。この健康運動指導士の資格は、昭和63年から厚生大臣（現:厚生労働大臣）の認定事業として、生涯を通じた国民の健康づくりに寄与する目的で創設され、平成18年度からは、財団法人健康・体力づくり事業財団独自の事業として継続して実施されています。特に、平成20年度から実施された特定健診・特定保健指導において運動・身体活動支援を担うことについて、健康運動指導士への期待がますます高まっています。

健康運動指導士の受験資格は、次頁の表に示す科目を修得することによって得られます。そして、（財）健康･体力づくり事業財団が実施する認定試験に合格すれば「健康運動指導士」の資格を取得することができます。在学中に合格した学生（受験のチャンスは４年生の７月頃と10月頃の２回）は、申請にあたって登録料の補助を受けられる制度があります。

健康運動指導士の受験資格を得るために必要な科目

	科　目		単　位
1	専門科目	ヘルスプロモーション	2
2	専門科目	生活習慣病と運動	2
3	専門科目	スポーツ生理学	2
4	専門科目	スポーツバイオメカニクス	2
5	専門科目	現代社会とエイジング	2
6	専門科目	スポーツ医学	2
7	専門科目	運動処方	2
8	専門科目	身体測定とデータ解析	2
9	専門科目	スポーツ心理学	2

10	専門科目	スポーツ栄養学	2
11	専門科目	エアロビック運動の理論と実際（陸上運動）	2
12	専門科目	健康とスポーツの理論と実際（陸上）	2
13	専門科目	健康とスポーツの理論と実際（水泳）	2
14	専門科目	フィットネスの理論と実際 －ストレッチングと補強運動－	2
15	専門科目	人体の構造と機能及び疾病	2
16	専門科目	健康産業実習	2
		合　計	30

その他の資格について

本学在学中に以下の科目を修得することによって、日本スポーツ協会が認定している「スポーツコーチングリーダー」の資格を取得することができます（各自の申請が必要）。「スポーツコーチングリーダー」は、地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部部活等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供する方のための資格です。多くの競技団体において、スポーツコーチングするためには有資格者であることが求められつつあります。在学中、もしくは、将来、スポーツコーチとしての活動を考えている学生は、ぜひ取得をしてみてください。

・コーチング論Ⅰ
・コーチング論Ⅱ
・トレーニング概論
・スポーツ心理学
・スポーツマネジメント
・スポーツ栄養学
・スポーツ医学
・アダプテッドスポーツ

人間科学部人間科学科 履修系統図

基礎科目

人間関係の理論と実践　基礎演習Ⅰ

基礎選択科目

心理学概論　臨床心理学概論

社会健康学入門

専門実践演習科目

臨床心理学実践演習（心理的アセスメント）　臨床心理学実践演習（心理学的支援法）

社会ライフデザイン実践演習Ⅰ

コース専門科目

心理学統計法Ⅰ　健康・医療心理学
心理学実験Ⅰ　司法・犯罪心理学
福祉心理学　産業・組織心理学
教育・学校心理学

心理学研究法　心理演習Ⅰ
心理学統計法Ⅱ　心理演習Ⅱ
心理学実験Ⅱ　心理実習Ⅰ
公認心理師の職責　心理実習Ⅱ
発達心理学　芸術療法
障害者・障害児心理学　遊戯療法
知覚・認知心理学　集団精神療法
学習・言語心理学　精神分析学入門
感情・人格心理学　被害者・加害者の心理学
神経・生理心理学　ホリスティック心理学
社会・集団・家族心理学　人間性心理学
関係行政論　ジェンダーの心理学
人体の構造と機能及び疾病　学校保健
精神疾患とその治療　こころとからだの発達
衛生・公衆衛生学　消費者心理学

人として生きる倫理

臨床心理学特殊講義　福祉心理学特殊講義

現代家族論
地域福祉論
精神保健概論
医療社会学
人間関係の心理学

看護概論
健康相談活動の理論と方法
地域医療社会論
いのちの医療社会論
暮らしの医療社会論
現代社会とヘルスケア戦略
現代社会と食マネジメント論
健康経営論
医療政策社会論
地域子育て論
コミュニティマネジメント論
生命社会学
対人社会心理学
対人行動論
コミュニケーションの心理学

衛生・公衆衛生学
健康心理学
こころとからだの発達
運動処方
生活習慣病と運動
病理学・免疫学
地域・看護実習Ⅰ
地域・看護実習Ⅱ（救急処置）

社会ライフデザインコース特殊講義

演習科目

卒業

選択科目

教育心理学概論
政治学概説
子どもの臨床心理学
教育相談の理論と方法

臨床心理学コース			社会ライフデザインコース	
子ども・発達心理学領域	メンタルヘルス領域	司法・犯罪心理学領域	社会健康学領域	

基礎演習Ⅱ

情報リテラシー実習

社会安全学入門

健康と運動　スポーツ健康科学概論

社会ライフデザイン実践演習Ⅱ

スポーツ健康実践演習Ⅰ　スポーツ健康実践演習Ⅱ

人間と災害
いのちを守るまちづくり
現代社会とエイジング
ライフデザイン論

自然災害概論
社会災害概論
現代社会と住まい
福祉デザイン概論
ユニバーサルデザイン論
競争と逸脱の社会学
脱炭素社会論
SDGs論
LGBTQ論
集団心理学
リスク認知心理学
消費者心理学
産業・組織心理学

知覚・認知心理学
神経・整理心理学
社会・集団・家族心理学
発達心理学
人として生きる倫理
ジェンダーの心理学

専門演習Ⅰ

スポーツ生理学
スポーツ運動学
健康とスポーツの理論と実際（陸上）
スポーツ心理学
ヘルスプロモーション
スポーツ社会学
スポーツ産業論

健康とスポーツの理論と実際（体操）
健康とスポーツの理論と実際（柔道）
健康とスポーツの理論と実際（剣道）
健康とスポーツの理論と実際（ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ）
健康とスポーツの理論と実際（バスケットボール）
健康とスポーツの理論と実際（バレーボール）
健康とスポーツの理論と実際（水泳）
健康とスポーツの理論と実際（サッカー）
健康とスポーツの理論と実際（ダンス）
エアロビック運動の理論と実際（陸上運動）
野外活動の理論と実際（野外キャンプ）
野外活動の理論と実際（スノースポーツ）
フィットネスの理論と実際
アダプテッドスポーツ
スポーツボランティア実習

トレーニング概論
トレーニング論
コーチング論Ⅰ
コーチング論Ⅱ
スポーツトレーナー実践

健康心理学
こころとからだの発育発達
身体測定とデータ解析
運動処方
生活習慣病と運動
衛生・公衆衛生学
健康産業実習

スポーツマーケティング
スポーツマネジメント
スポーツイノベーション
スポーツツーリズム
スポーツファイナンス
スポーツ実務実習a（企業PBL型）
スポーツ実務実習b（海外視察型）
スポーツ政策論

スポーツ栄養学

地域スポーツ論

専門演習Ⅱ

スポーツ統計情報処理
スポーツ医学
スポーツバイオメカニクス
学校保健

保健体育科教育法Ⅰ
保健体育科教育法Ⅱ
保健体育科教育法Ⅲ
保健体育科教育法Ⅳ

保健体育科実践Ⅰ
保健体育科実践Ⅱ
実技対策セミナー

スポーツ科学コース特殊講義

研究

所属コース以外の専門実践演習科目／コース専門科目
本学科配当外の全学共通科目

	スポーツ科学コース		
社会安全学領域	スポーツコーチング領域	スポーツ健康領域	スポーツビジネス領域